

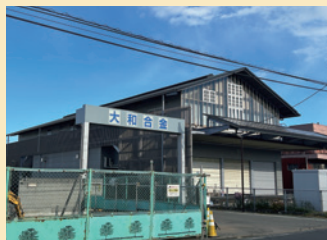


多様性を認め合う取り組みで、 経営戦略と人材戦略のマッチングを実現

大和合金 株式会社

会社概要

設立：1941年
所在地：埼玉県入間郡三芳町上富 474
資本金：4500万円
従業員数：36名



航空機・自動車・重電機器・機械部品・半導体・溶接など様々な分野で使われる銅合金。クロム銅、アルミニウム青銅、他 100 種類を超える特殊銅合金を一筋に、溶解から鍛造・押出・熱処理・機械加工までの一貫生産体制をとり、素材の開発から製造・製品までを行っています。

生まれ変わっても入りたいと思えるような会社を目指していきたい



代表取締役社長
萩野 源次郎

社員に少しでも喜びを感じてほしい。やりがいを見つけて、豊かな人生を送ってほしい。そんな思いで会社を成長させていきたいと考えています。

時代とともに変化する人と人との関係性。多様性を認め合い社員同士が理解を深めれば、よりよい会社へと歩むことができます。大和合金株式会社は外国人材など多様な人材の採用・育成に力を入れることで、強い組織づくりを進めてきました。個性あふれる社員とどのように向き合っているのでしょうか。萩野社長にお話を伺いました。

この記事のポイント

- ①外国人材育成の注力により企業のグローバル化を推進
- ②社員と地域に愛される企業づくり
- ③人材のダイバーシティによる組織の強化

人はそれぞれ。個性を生かす働き方を

どのような採用を行っているのでしょうか？

年齢や性別、専門分野、国籍、人種、そして価値観。多様な人材の採用・育成に力を入れています。一人ひとりが個性的という考えを社内に広めていくことを大切にして、お互いを認め合いながら同じ会社で働くことによって、より柔軟で強い組織ができていくと考えています。現在 16 名の外国人材が在籍しています。言語・文化・環境、それぞれが違うバックグラウンドを持っているからこそ、個性を存分に発揮し、会社に大きく貢献していると感じています。近い将来、よりグローバルな事業展開が予想されますので、外国のお客様と真の信頼を築くためにも、外国人材の存在は欠かせなくなってくると思います。

大和合金の魅力とは？

「皆がとても親切で、興味をもった仕事にチャレンジさせてもらえます。まだまだわからない日本語もありますが、社長が片言の母国語で話しかけてくれ、愛を感じます。業務外の社内イベントもたくさんあるので、皆とコミュニケーションがとれています。日本で働いていて寂しいと感じたことはありません」とアメリカケンタッキー州出身のパークリーさん



品質保証課
エレイン・パークリー



外国人材の採用がもたらす効果

外国人材を採用することで、国や地域、人種による異なる視点や考え方を取り入れることができ、イノベーションや問題解決力の向上が見込めます。そのためには、**多様性を認め合う企業文化、風土づくり**が有効な一つの方法と言えるでしょう。



「とにかく働きやすいです。お嫁さんとお姑さん、息子さんとお母さんなど、2世代で勤めている人もいます。私たちは社内で出会って結婚し子供が生まれ、先日まで私は産休を夫は育休をいただきました。復帰したいタイミングでまた働き始めましたが、子供や家族に何かあれば、事情を話します。会社はそれを受け入れてくれるので、プライベートを優先した勤務ができています。家族そろって長く意欲的に働いて、感謝しています。」と山田さんご夫妻。



製造課
山田 秀紀

総務課
山田 寛子

「禅と論語の勉強会」で人間力向上

多様な人材を受け入れるからこそ、他人への理解を深めると同時に、自分自身の心をコントロールして欲しいという思いがあります。そこで、「禅と論語の勉強会」を定期的で開催しています。考えや思いなどの価値観を共有することで、自分自身と向き合う時間を過ごしてもらっています。勉強会を開催してくれる先生自身が、挫折を知っているからこそ社員に寄り添ってくれています。実際に人間関係で心を病んでしまったり、子供のことで悩みを抱えている社員は、勉強会を経て自分の力で立ち直ることができました。メンタルの不調がありそうな社員は、禅に参加するため業務を抜けてもらうこともあります。禅を受け、心を無にして初心に立ち返ることは、本人にとっても会社にとってもいいことばかりです。

人を大切にする経営を始めたきっかけ

——なぜ社員を大切にしようと思ったのですか？

祖父の代から受け継いだ考えがベースになっています。祖父は社員を家族のように大切にしていたことを書き綴った資料を多く残してくれました。私は祖父が残してくれた考え方を、会社の文化として守っていきたい。それが自分の使命だと感じて行動しています。



地域に愛される会社を目指して



工場から煙がでていると、地域の人は少なからず不安になると思います。そこで、会社のことをより知ってもらうために、工場見学会を実施しています。地域の人の理解や協力なくして会社は成長できないですからね。また、地名を冠した「みよし森の音楽会」を開催し交流を深める活動や、毎週木曜日の朝に近隣清掃活動も行っています。これらは、地域に貢献しているという実感を得て、社員に幸せを感じてもらうための活動です。地域と会社と一緒に進んでよりよい方向に進んでいければ、これほどに嬉しいことはないと考えています。

Message

人材のダイバーシティでよりよい企業へ

外国人材の育成に注力したことで、海外への出荷量が2018年から急上昇しました。「人」を資本として考えたことが、自然と結果につながったのだと感じています。会社として仕事があるのは日本国内だけではなく、海外に目を向け、海外の需要を認識することで、会社は大きく変わることができると思います。大切なのは海外の需要と自社の技術をマッチングできる人材がいるかどうかです。外国人材の採用へと視野を少し広げ、その価値を最大限に引き出すことができれば、会社の未来は大きく変わると考えています。

「みんな違ってみんないい」自分と同じ人なんてどこにもいません。価値観を一致させるのではなく理解し合うことが大切です。多様な人材が協力しあえる会社こそ強く大きくなっていくのだと確信しています。100年後には3代続く3世代社員が在籍してくれることを目指して、社員が誇れる大和合金でいられるように、できることを精一杯続けていきます。